

## 「県立学校家族休暇制度」Q & A

Q1 「県立学校家族休暇制度」とは何ですか。

A1 家族で過ごす時間を確保するため、保護者の責任のもとで幼児児童生徒が平日に休暇を取得することができる制度です。取得した日は欠席にはならず、出席停止・忌引等として取り扱います（別途定める「取得できない日」を除く）。

Q2 取得できる日数は何日ですか。また、連続で取得することはできますか。

A2 取得できる日数は試行期間中3日までで、1日単位での取得となります。連続して取得することも、分散して取得することも可能です。

Q3 いつでも取得できますか。

A3 学校行事がある日や定期テストなどがある日、その他学校が取得できない日と定める日は取得できませんので、予め行事計画表等をご確認ください。加えて、単元テストなど、行事計画表には掲載されないテストもありますので、取得を検討する際は必ず学校にご確認ください。

Q4 急きょ保護者の休みが取れることになった場合、前日に取得を届け出ることはできますか。

A4 高校計画的な取得を奨励しており、また、学校も早めに把握する必要があることから、なるべく1週間前までの届出をお願いします。

Q5 どのような活動であれば取得の対象になりますか。

A5 取得中の活動場所や活動内容等について特に制限はありません。ただし自宅内外を問わず保護者同伴を原則とします。

Q6 子どもたちだけで活動しても大丈夫ですか。

A6 この制度は、保護者の責任のもとで、家族で過ごす時間を確保するための制度であり、保護者の皆様に子どもたちの安全を確保していただく必要があることから、子どもたちだけで活動することを目的に取得することはできません。

Q7 取得することで生じる学習の遅れはどうすればよいですか。

A7 家族休暇は通常の欠席と同様の対応となることから、補習等はいりません。自主学習や家庭学習などにより補っていただくようお願いします。授業のプリント等については学校にお問い合わせください。

Q8 取得中に子どもがけがをした場合、日本スポーツ振興センター災害給付の対象になりますか。

A8 家族休暇は保護者の責任のもとで取得する休暇であり、学校の管理外となることから、日本スポーツ振興センター災害給付の対象とはなりません。取得に際しては、保護者の皆様に幼児児童生徒の安全を十分確保していただくようお願いします。

Q9 **高校・特別支援学校の一部の生徒**もともと欠席や欠課が多く、出席時数不足や出席日数不足の懸念があるのですが、取得しても大丈夫でしょうか。

A9 もともと欠席や欠課が多く、取得することにより出席時数や出席日数の規定を満たすことができなくなり、未履修や原級留置となる場合は、取得することはできません。また、取得後に出席時数不足や出席日数不足がわかった場合でも、学校は取得を取り消すことはできません。取得を検討する際は、欠席や欠課の状況を十分ご確認ください。

※特別支援学校の一部の生徒・・・特別支援学校高等部に在籍し、高等学校学習指導要領に準ずる教育課程を履修している生徒

### 県立高校における履修・原級留置について

県立高校では、各科目の履修の条件に「年間で出席すべき授業時数の3分の2以上の出席」を規定しています。

また、ほとんどの場合、進級の条件に「すべての科目の履修」と「年間で出席すべき授業日数の3分の2以上の出席」を規定しています。

家族休暇は欠席にはなりません、もともと欠席や欠課が多い生徒が家族休暇を取得した場合、以下のように出席すべき時数や日数が減ってしまうことで規定を満たせなくなり、未履修や原級留置になってしまう可能性があります。

※3日取得により、ある科目が出席時数不足となり未履修となる例

(年間授業時数 35、取得前の出停・忌引等 0、欠課時数 11 と仮定)

|     | A<br>年間<br>授業<br>時数 | B<br>出停<br>忌引<br>等 | C=A-B<br>出席<br>すべき<br>時数 | D<br>欠課<br>時数 | E=C-D<br>出席<br>時数 | F=C×2/3<br>出席<br>すべき<br>時数の<br>2/3 |                                |
|-----|---------------------|--------------------|--------------------------|---------------|-------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| 取得前 | 35                  | 0                  | 35                       | 11            | 24                | 23.3                               | E>F 出席時数は 2/3 を超えている<br>→履修    |
| 取得後 | 35                  | 3                  | 32                       | 11            | 21                | 21.3                               | E<F 出席時数が 2/3 を下回ってしまう<br>→未履修 |

↑欠課にはならなくても未履修になってしまう！

※3日取得により、出席日数不足となり原級留置となる例

(年間授業日数 200、取得前の出停・忌引等 0、欠席日数 66 と仮定)

|     | A<br>年間<br>授業<br>日数 | B<br>出停<br>忌引<br>等 | C=A-B<br>出席<br>すべき<br>日数 | D<br>欠席<br>日数 | E=C-D<br>出席<br>日数 | F=C×2/3<br>出席<br>すべき<br>日数の<br>2/3 |                                       |
|-----|---------------------|--------------------|--------------------------|---------------|-------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 取得前 | 200                 | 0                  | 200                      | 66            | 134               | 133.3                              | E>F 出席日数は 2/3 を超えている<br>→未履修科目がなければ進級 |
| 取得後 | 200                 | 3                  | 197                      | 66            | 131               | 131.3                              | E<F 出席日数が 2/3 を下回ってしまう<br>→原級留置       |

↑欠席にはならなくても原級留置になってしまう！